

小陰唇縮小・陰核包皮切除術とは

小陰唇縮小・陰核包皮切除術とは、陰部周辺をメスで切開し、余分な組織を切除・縫合などを行いご希望のデザインに整える手術です。本来の機能を維持しながら形を整えます。汚れのたまりやすい余分な組織を切除することで陰部を衛生的に保つことができるため、においや感染のリスク軽減にもつながります。

小陰唇縮小・陰核包皮切除術にあたっての注意点、ケアについて

◎手術当日は陰部周辺の毛を全て剃毛してきてください。

◎手術後は多めの出血があります。生理用ショーツ、夜用ナプキンをご持参ください。

・術後2～3日は多めの出血がありますので、夜用などのナプキンを装着してください。約1週間ほどは少量の出血が続きます。数週間で手術部位の痛みがなくなっていきます。とくに出血が多い2～3日の間は、安静に過ごしてください。

・術後は切開部分に傷があり、細い糸で縫合している状態です。傷口や周辺が下着で擦れることで負担がかかり、痛みを伴う場合もあります。

・手術日から2週間後に来院していただき、経過観察を行います。

・術後は感染のリスクを避けるため、創部を清潔に保てるようにしてください。術後当日より、水圧を弱めにしたぬるめのシャワーで創部を優しく流します。毎日必ず行ってください。熱いお湯は血行を良くし腫れの原因となりますので、ぬるめの温度をおすすめします。

・石鹸やボディソープを使って創部を洗うと、傷にしみる場合があります。傷口が安定すればしみなくなりますので、念のため術後1週間程度は避けていただくのが無難です。

・2週間後の診察で問題がなければ入浴が可能です。それまでは浴槽の中の雑菌が創部についたり、血行が良くなることにより腫れが引きにくくなる可能性もあるため、お避けください。

・術後1ヶ月程度は創部に負担をかけないように、身体を洗う際に強く擦ったり水圧を強くせず優しく扱うようにしてください。

・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。

・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は1ヶ月程度お控えください。

・術後の性交渉は1ヶ月以上経ってから、十分に注意の上行うようにしてください。違和感があるうちは避けてください。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。

※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

小陰唇縮小・陰核包皮切除術で生じる可能性のあるリスクについて

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の手術部位の形、皮膚の厚み、たるみ具合などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。時間経過とともに腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【血腫】

切開した箇所に血の塊ができる場合があります。自然に吸収されますが、ごくまれに出てくることもあります。

【傷跡】

皮膚をメスで切開する手術のため、多少の傷跡が残ります。体質により傷跡が目立つ方と目立たない方がいます。

小陰唇縮小・陰核包皮切除術をお受けいただけない方

妊娠中の方、妊娠している可能性がある方、親権者の同意がない未成年の方、手術部位に怪我や炎症がある方、麻酔剤にアレルギーをお持ちの方、その他医師が不可と判断した場合は手術を受けられません。

©2024 医療法人社団 桜恵会

THE ONE.